

食料産業局長賞

みなみ信州農業協同組合 (長野県飯田市)

市田柿

・台湾
・香港
・シンガポール
・アメリカ

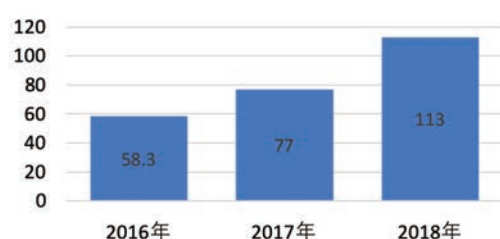
国内需要低迷期に価格安定化を目指す

取り組み内容

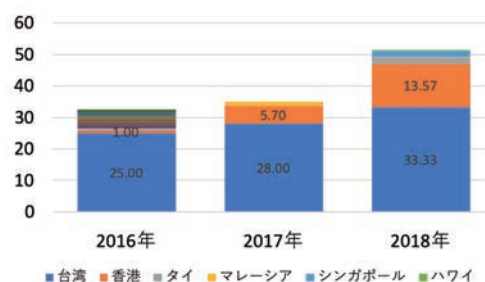
- 市田柿は11月から12月に国内出荷の最盛期を迎えるが、年明けの市場価格が低迷。国内自給バランスを加味しつつ、青果市場経由で中華系の春節需要を見据えたアジア輸出を強化している。
- 海外でのブランド保護のため、香港、台湾で商標登録したほか、タイでは登録出願、ベトナム、タイ、マレーシアではGI登録申請を行っている。
- 商品名に地名が入り、見た目や食感においても他の生産地と差別化しやすいメリットをいかし、生産技術を含めた総合的なブランド力の強化に取り組む。

輸出実績の推移

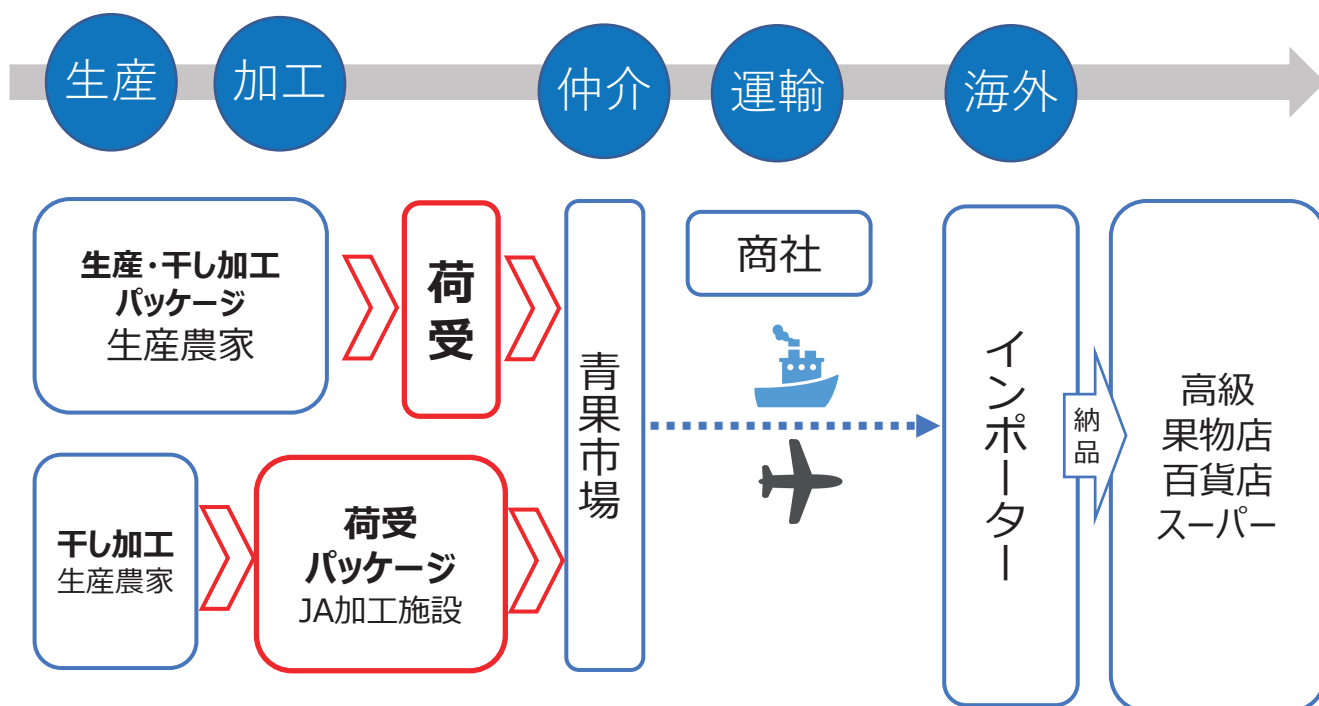
輸出金額の推移（百万円）



輸出量の推移（t）



輸出の仕組みチャート



輸出に取り組んだ背景

- 市田柿は国内で歳暮や年始のギフト需要が大きく、年明けの価格安が課題となっている。20年前から台湾からバイヤーが買い付けに訪れていたが、業者まかせの販売が続いており受け身であった。
- 2016年に特許庁の地域団体商標海外事業に参画し、戦略的な輸出を開始した。しかしその年の1月の販売価格が下落し、生産者の満足のいく価格で販売ができない事態となった。

課題と解決のポイント

👍 供給価格の維持

国内の需要期は年末の60日間前後と短く、年明け1月からの需要減退による価格低迷が深刻となっている。生産者のリスクが大きい。供給価格の維持を目指す。

年明けから中華系の春節需要が高まるため、特にアジア市場での認知度向上、販売拡大を図るべく海外用パッケージやリーフレットを制作するなど、地道なプロモーション活動を行っている。

👍 ブランド力の向上

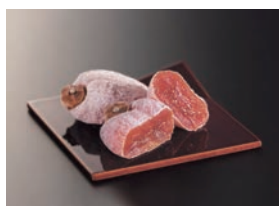
主要な輸出国である台湾や香港にはすでに中国や韓国の干し柿も流通しているが、市田柿とは品質が全く異なる。固有の魅力や価値を伝える必要がある。

地理的表示（GI）を取得し南信州全域で生産技術、栽培管理、加工技術の統一をはかるなど、改めて総合的なブランド力の向上や維持に力を入れている。

👍 賞味期限延長

現地のインポーターや販売業者から、賞味期限が短いことを指摘されている。（現在は最長60日）

飯田市農業振興センターの協力で賞味期限延長試験を実施し、パッケージフィルムの変更によってバリア性を強化。期限が延長できる見込みとなった。（最長90日へ）



市田柿商品



170gトレイ
6袋入化粧箱



果実専門店（梅林）で試食会を実施



スーパーでの
売り場作り

今後の展望

- 市田柿をそのまま食べるだけでなく、料理やデザートに取り入れるなど新しい食べ方の提案をしたい。イタリアなど欧州市場ではイタリアンとの取り合わせも提案し、展開する予定。
- 海外で展開するクッキングスタジオと協働してイベントに取り組み、食材としての市田柿の可能性を拡大し、新たな顧客層の拡大に力を入れている。
- 市田柿の手間のかかる生産方法を積極的に伝え、高品質商品としての価値を海外で強くPRする。事前商談の拡大を目指す。